伊勢鳥羽志摩・吉野地域におけるMaaSを活用した二次交通拡充｜近畿日本鉄道株式会社

2026/3/6

目的：公共交通による地域周遊拡大と利便性の向上

- 地域の観光促進のため、鉄道降車後の二次交通の選択肢増加と一次交通とのシームレスな接続により、公共交通機関による域外来訪者の行動範囲を広げ、周遊・滞在時間の増加と二次交通の移動の観光化や交通利便性の満足度向上を目指す
- 二次交通の移動データを取得し、リピータ来訪者の周遊・滞在先の特定等を可視化・分析し、その結果を自治体やDMO等と観光コンテンツの拡充等の検討に活用する。

事業内容：地域MaaSで繋がるシェアサイクルの新規整備

【交通サービスの高度化】

- 鉄道降車後の二次交通の選択肢増加のため、シェアサイクル（HELLO CYCLING）のポート29箇所と自転車71台を導入し、運営を開始。
- 「旅マエ」や駅到着前等にシェアサイクルの紹介や予約、決済ができるよう、一次交通（特急車内）にシェアサイクルサイトに遷移する二次元バーコードを記載したチラシやシールの掲出や伊勢志摩のMaaSアプリ（ぶらりすと）等でのリンク掲載を実施し、利用促進に取組んだ。

【モビリティデータの取得・活用】

- シェアサイクルで取得した移動軌跡や決済データをBIツールで可視化、分析し、鳥羽市や鳥羽市観光協会等のDMOと共有（アカウント配布）し、サイクルツーリズム推進や最適なポート設置等の検討に活用した。

【エンドコンテンツ連携】

- シェアサイクルを活用したモニターツアーを実施し、SNS等で発信するとともに観光地や飲食店等を含むモデルコースを制作し、シェアサイクルによる周遊促進を実施した。

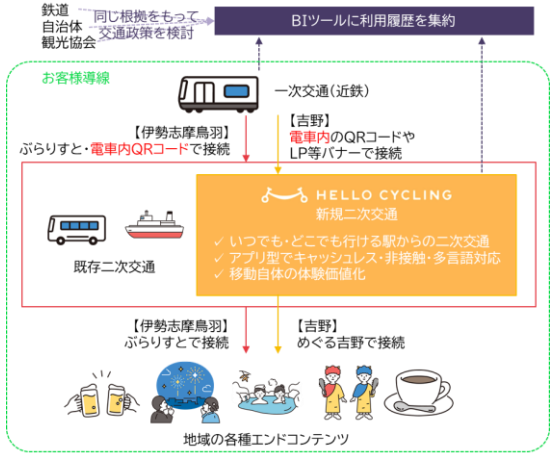
効果

- 課題：特にリピーターが多い伊勢志摩・鳥羽地域は、個々の移動需要に対する二次交通の供給不足と発地側の情報発信が不十分であった。
- 効果：様々な需要に対応する二次交通が増えたことにより、観光での交通の利便性が向上した。また、プロモーションにより二次交通（シェアサイクル）の供給を「旅マエ」や駅到着までの列車内で知ることができるようになり、利用促進に繋げることができた。

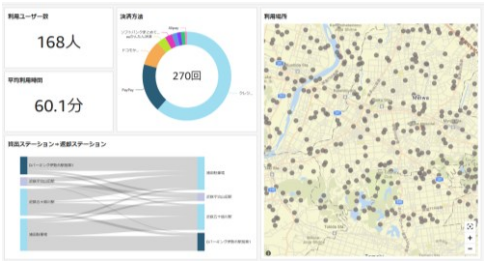
【実施エリア】



【本事業の取組の全体像】



【BIツールの閲覧画面】



【シェアサイクル（HELLO CYCLING）の整備】



プロジェクトの効果

課題に対する効果

#	課題	効果
1	従来、一次交通利用（駅到着等）時の二次交通の選択肢では、域外来訪者の移動需要をまかなえず、域内の観光地等への周遊促進が充分ではなかった	新たな二次交通としてシェアサイクル駅前等へのポート設置と導入やシェアサイクル活用のSNS等での発信、観光地や飲食店等を含むモデルコースの制作により、1,361ユーザーの観光地等への周遊を促進することができた
2	域外来訪者のうち67.1%がリピーターであり、周遊や滞在先の多様化が想定されるが、周遊・滞在先の特定や動態の可視化、分析ができておらず、リピータ含めた域外来訪者の周遊や滞在の促進につながる施策の検討ができなかった。	シェアサイクルで取得した移動軌跡や決済データから陶芸店や飲食店などへの周遊・滞在先が明らかになった。また、BIツールを導入し、可視化、分析し、鳥羽市やDMOと共有し、サイクルツーリズム推進や最適なポート設置等の検討に活用した。

KPI

【凡例】 **赤字：目標達成**　**青字：目標未達成**

#	測定項目	KPI	計測方法	計測頻度・回数	事業実施年度の目標値	最終結果	達成/未達成の原因
1	【三重】MaaS利用者数	「ぶらりすと」バナー遷移数	サイトダッシュボードにより確認	毎月	21件/月	**46件/月平均**	ディープリンクに加え、チケットページ最上部にバナーを追加したことにより遷移数が増加した。
2	【三重】一次から二次交通の遷移数	電車内に設置するQR遷移数	GA4により確認	毎月	180件/月	**572件/月平均**	特急車内の座席背面ポケットのシェアサイクルサイトに遷移を促すチラシ等の視認性が有効であったため。引き続きシェアサイクルの利用促進に有効な施策と認識できた。
3	【三重】新たな二次交通利用者数	シェアサイクル利用者数	BIツールで確認	必要な際に随時	418件/月	**413件/月平均**	市域を跨いだシェアサイクル利用も多いことから、広域で同時にポート設置等したことが利用者増加につながった。
4	【奈良】一次から二次交通の遷移数	電車内に設置するQR遷移数	GA4により確認	毎月	9件/月	**67.5件/月平均**	特急車内の座席背面ポケットのシェアサイクルサイトに遷移を促すチラシ等の視認性が有効であったことと一次交通（特急）の利用者が増加したため。
5	【奈良】新たな二次交通利用者数	シェアサイクル利用者数	BIツールで確認	必要な際に随時	176件/月	**57件/月平均**	坂道や道路環境がシェアサイクル利用に適していなかったためと想定。
6	データ分析ツールの利用者評価向上	関係者の利用満足度（5段階）	アンケート調査で確認	年1回	5.0pt	**4.3pt**	関係者とのデータの活用のためのBIツールのレクチャーや分析方法、議論が足りていなかったためと想定。
7	取得データの活用回数	企画書や資料等への転載回数	アンケート調査で確認	年1回	5回	**1.8回**	取得データを転載できる会議や資料の具体化について議論が不足していたため。

MLIT Copyright © 2025 by MLIT. All rights reserved.